

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和6年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月7日(金) 13:00~14:00
*9:00~12:00「吉城高校探究報告会」参観
- 3 開催場所 飛騨市文化交流センター
- 4 参加者
(敬称略) 会長 沖畑 康子
副会長 桐山 吉衛
委員 都竹 淳也
中村 健吾
柴田 駿一
オブザーバー 中山 和哉
竹林 久緒
飛騨市区会長会等連絡協議会会長
飛騨市長
飛騨青年会議所理事長
吉城高等学校同窓会会長
岐阜県教育委員会高校教育課
飛騨市役所企画部ふるさと応援課

学校側 野中 賀雄 校長
下嶋 和長 教頭
田本 里美 事務長
山下 博巳 教務主任代理
小原 薫 生徒指導主事代理
井田 和実 進路指導主事
桐谷 直嗣 特別活動部長
近藤 恵子 キャリア推進部長
門前 雅美 理数科主任

5 会議の概要 【※意見については紙面で提出のあった意見を含む】

(1) スクール・ミッションについて (出席委員より承認が得られた)

意見1: 「飛騨の地域資源を活用した」が明記されたことで、地域の魅力を活用した学びを目指すといったイメージが具体化され、よりよいスクール・ミッションになった。

(2) 今年度の報告及び質疑応答について

【学校経営・組織運営】

意見1: 吉城高校への進学希望者が減っているのが気になる。YCKプロジェクトが自分のためになり、それが進路実現につながっていることが中学生に伝わっていないのではないか。理数科を含めてPRが足りないのではないか。

意見2: 古川中との中高連携はどのくらいしているのか。探究の学びに関する連携というやり方もあるのではないか。

意見3：吉城高校のよさを中学生に伝えられていないようだが、どんなことに力を入れているのか。

⇒高校説明会、夏のオープンスクール、秋の1日入学を行っている。またホームページの他にもインスタグラムで発信をしている。来年度の高校説明会には、その中学校を卒業した生徒も一緒に行くことを考えている。

【教育課程・学習指導】

意見4：教職員の努力により選択授業や少人数学級などのきめ細やかな指導が行われている。また、一人ひとりの能力や適性に応じた指導により主体的な学習への取組に一定の成果が確認できる。

【生徒指導（教育相談）】

意見5：学校はきめ細やかなアンケート調査等で実態を把握している。また、いじめ防止等対策検討会議などにおいてスクールカウンセラーの意見を参考としながらインシデントの早期発見等に努めており、丁寧な対応をしている。

意見6：意識調査アンケートから、自己肯定感が高いことが伺える。活躍する場が設けられ努力が認められているのだろう。

【進路指導】

意見7：小論文・面接等の指導は体系的な学習から実践を踏まえた練習まで大変きめ細やかな対応をしており、保護者への進路説明会の内容も大変充実している。

【特別活動】

意見8：生徒会の主体的な動きがよく伝わってくる。よりよい学校生活を築こうという自立した姿を見ることができている。生徒の主体性を大切にし、自立を促す指導があるのだろう。公式ポロシャツの活動はすばらしかった。

【キャリア教育】

意見9：YCK活動に参加する生徒と全く参加しない生徒では、身につけた力に違いはあるのか。

⇒生徒が関心を持って探究をし、それが自己の進路や生き方につながっている。教科にも関連した探究活動を行っているし、生徒会においても文化祭やポロシャツ作成などを通じて、生徒の主体性が向上している。3年間何もしていない生徒は受験や就職などの面接等でアピールできないことがない。

(3) 探究報告会の感想

意見10：自分ごととして課題を考えて失敗も含めて発表していた。多くの教員の支えがあり、さらに市役所や地域との連携がある。何かあれば気軽に市役所に行ける距離感がすばらしい。

意見11：昨年度と比べて今年の発表はとてもよかった。生徒たちが学校で直面している課題を解決したいという動機を持って活動している。理数探究についても、普段の教科での学びがあるからこそその探究であるので、知的好奇心の高め方を大事にしていきたい。

意見12：地域課題探究のクママップ（クマ地図）や地域プロジェクトのバスのアプリ提案などの発表を見て、地域や社会を見る視野が広がっていると感じた。自分自身の成長について発表しているのがよかった。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会において、各分掌長から今年度の取組と自己評価を説明し、委員から質問や助言を得た。特に探究学習の取組や探究報告会の内容については、その学びを通して生徒自身がどのような力を身に付け、どのように成長したのか、また、進路選択にどのように影響したのかがわかる内容となっていると評価を得た。一方で、更なる発展につながるように、地元中学校との探究活動を通じた連携について提案があった。スクール・ミッションにもあるように、「飛驒の地域資源を活用した」教育活動を組織的に推進したい。